

06

June
2026

[月刊] キリスト教書評誌

本の ひろば

HON-NO-HIROBA

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2026年6月1日発行(毎月一回1日発行)

第822号

出会い・本・人

知恵の結晶、教会の宝『キリストにならいて』 片柳弘史

特集シリーズこの三冊!

教会がZ世代をつまずかせないためのこの三冊!

井本祐介

本・批評と紹介

並木浩一 著

アモス書を読もう 小友 聡

フランク・ケリー 著／北垣宗治、森永長壹郎 訳／若松大祐 編／アン・ケリー 監修

届かずとも綴り続けた宣教師 塩野和夫

上林順一郎 著

80歳から創めるキリスト教 松本敏之

越川弘英 監修

マルコによる福音書 説教準備と説教例 吉岡恵生

青島忠一朗 著

アツカド語文法 三津間康幸

堀川敏寛 編著

敬神奉仕 東洋英和女学院大学礼拝説教より 小暮修也

大頭真一 著

この杯を飲め 吉澤慎也

金 承哲 著

神学と文体 芦名定道

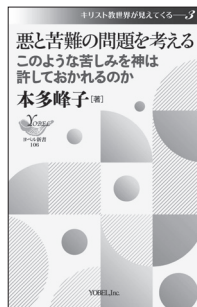
森田安一 著

ドイツ語圏宗教改革 野々瀬浩司

◆ 既刊案内

◆ 書店案内

本多峰子「著」このような苦しみを神は許しておかれるのか 悪と苦難の問題を考える



答えないのはわかっているが！ 古来「善なる神に創造されたはずのこの世界になぜ悪があるのか、世界はなぜ苦悩に満ちているのか」は人々を悩ませ、「神義論」における論議が烈しく繰り返されてきた。本書はその格闘の歴史を研究者視点でつまびらかにし、現代に生きるキリスト者として静かな着地点を誠実に探る。

新書判・二二二頁・一五四〇円

3部作

完結！

イエスとの出会いと救い 新約聖書の人びと

新書判・一七六頁・一五四〇円

イエスの語るたとえ 今、あなたはどうか生きるか

新書判・二二六頁・一五四〇円

富田正樹「著」 新型キリスト教入門 その2 重版準備中！

戸惑いながら信じてる50



反響！

現代のクリスチャンは社会の諸問題に聖書からの応答や回答を得ることができないのか？ 聖書が書かれた時代、戦争、暴力、搾取、差別などの話題には反応するが、でも原発、臓器移植、デザイナー・ベビーなどについてはナッシング!? どうしたらいいか。このさらなる難題に牧師とみティが挑んだ第2弾！ 四六判・二二六頁・一五四〇円

富田正樹「著」 疑いながら信じてる50

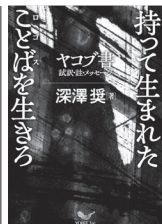
3刷出来

新型キリスト教入門 その1 四六判・一九二頁・一五四〇円

ロゴス
持つて生まれたことばを生きたる
ヤコブ書 試訳・註・メッセージ

深澤奨「著」

持つて生まれたことばを生きたる



パウロ大先生を正面切って批判する過激で危険な書物が新約聖書に…それが藁の書簡と呼ばれた「ヤコブ書」。牧師としての著者はギリシア語聖書本文に肉迫する「私訳、試訳」を丹念に行った上で、この書の魅力と隠された使信を丁寧に掘り起こす。

四六判・二二四頁・一八七〇円

金子晴勇キリスト教思想史の例話集全6巻

IV 愛のかたち



キリスト教思想史を学ぶすべての人に、あたかも絵画を観るように理解できる例話集成！「第4回本」

新書判・二五六頁・一五四〇円

エックハルト 阿部善彦「訳」
若き修道者のための言葉

中世の神学者であり、霊性の巨匠が語るエックハルト版「君たちはどう生きるか」。本書は、エアフルトの修道院の院長であり、テューリンゲン地区における管区長代理である、説教者兄弟会のエックハルトが、若いドミニコ会士たちと行った諸々の講話である。



新書判上製・二八〇頁・一九八〇円





知恵の結晶、教会の宝

『キリストにならない』

片柳弘史

わたしが紹介するまでもないと思うが、カトリック教会の歴史において聖書の次に多く読まれた本、数知れぬほどのキリスト教徒を導き、精神の根底から働きかけて教会の歴史を変えた本、それが『キリストにならない』だ。

わたしが所属するイエズス会の創立メンバー、イグナチオ・デ・ロヨラやフランシスコ・ザビエルらが交わした書簡を読んでいると、ときどき、「ジルソンの何番」という言葉に出くわす。当時、『キリストにならない』はジルソンという人物が書いたものだと思われており、「ジルソンの何番」というのは、『キリストにならない』の何章何節を指している。それだけ言えどどんな内容であるかが分かるくらい、つまり、全ページを暗唱することができるくらい、彼らは『キリストにならない』を読み込んでいたのだ。これはイエズス会員だけに限らず、近年ではマザー・テレサも同じだった。

『キリストにならない』はトマス・ア・ケンピスという、一

生のほとんどを修道院の中で過ごした一修道者によって書かれたものだが、イエズス会員たちだけでなく数知れないキリスト教徒たちの中で内面化され、彼らを通して歴史を変えていったキリスト教靈性史において、これほどまでに影響力を持った本は稀有と言ってよいだろう。

わたし自身も折にふれて読み返し、修道者としての自分、キリスト教徒としての自分を取り戻すための糧としている。この本に書かれている内容のすべては、ケンピスの修道生活の体験に基づくもので、実生活の役に立つことしか書いていない。キリスト教徒でなくても、この本を読めば、人間として生きていくことの原点に立ち返る体験ができるだろう。「自分を万人の下に置こうとて、それには何の害もない。だが、自分をたえ一人の上にも置くなら、大変な害を受けよう」(大沢章・呉茂一訳、岩波文庫)、この本の中でわたしが最も大切にしている言葉だ。

(かたやなぎ・ひろし「イエズス会司祭」)



▼シリーズ この三冊！

教会がZ世代をつまづかせないための この三冊！

井本祐介

(いもとゆうすけ) おざく台キリスト教会牧師、聖望学園中学校教師

Z世代とは、一九九〇年代中盤から、二〇一〇年生まれ、ネットやSNSとともに育った「デジタルネイティブ」世代を指します。みなさんの教会では、Z世代との関わりはいかがでしょうか？

Z世代を理解するなら、小説より解説本が良いのでは？ しかし、Z世代「について」知ることと、Z世代「を」知ることは別物なのです。

英語で「Put yourself in someone's shoes」(相手の靴を履く)という表現

があります。相手の立場で考えるという意味です。小説を読む時、私たちは登場人物の立場から、見つめ、聞き、感じ、考え、傷つき、痛み、葛藤します。読みながら、少しでも他の人の靴を履かせてもらう体験をするのです。

私は以前、あるマイノリティに関する資料を多く読み、知識を頭に蓄えました。それでも、どこか他人事で「聖書にはこう書いてある」という冷たい、上から目線は変わりませんでした。

しかし、そのマイノリティが主人公

の小説を読んだ時、主人公が投げつけられた言葉を自分も聞き、傷つき、悲しみを感じました。受けた不当な扱いに心揺さぶられ、怒りが湧き上がりました。

これが小説の、物語の力です。頭でなく、身をもって肌で感じる体験。それを通し、自分の内側に小さくですが確かに、それまでとは違う見方や考え方が生まれてくるのです。

小説を通し、私の狭い考えは少しずつ柔らかくされ、広げられていきました。もちろん当事者との関わりでこそ本当の意味で教えられますが、小説はその前の良い備えとなりました。

教会は、社会に生きるさまざまな人の靴を履く体験が不足しているのではないかと感じます。実際、Z世代が神に無関心なのではなく、私たちの不理解や価値観の押しつけが、彼らを福音から遠ざけ、教会の姿勢こそがつまづ

きの石となつてゐる場面を何度も見てきました。

彼らに響く言葉や、適切な接し方は分からない。けれど、せめて余計なつまりずきは与えない。教会の問題で彼らに福音が届くのを妨げたくない。その感覚が大切なのです。

そこで、Z世代の靴を履かせてもらえる体験ができる小説を三冊紹介します。小説には整理された結論や答えは出てきません。けれど、これらを読み、驚き、悩むことで、私たちの内側で何かが変わつてほしいのです。

『推し、燃ゆ』（宇佐見りん）

「アイドルやアニメ、音楽ではなく、もっと信仰に熱心になつてほしい」。そう若者たちに思ったことはないでしょうか？

第一六四回芥川賞受賞作『推し、燃ゆ』が描く「推し活」は一見すると信

仰とは無縁です。しかし、「推しが尊い」「推しが生きる支え」「推しのためなら何でもできる」といった文面の「推し」を「キリスト」に置き換えれば、驚くほど重なるのです。

主人公・あかりが生き辛さに悩み、周囲から取り残されていく焦燥感の中で生きる支えとなつていたのは、神ではなく「推し」の存在でした。

「あたしには、みんなが難なくこなせる何気ない生活もままならなくて、その皺寄せにぐちゃぐちゃ苦しんでばかりいる。だけど推しを推すことがあたしの生活の中心で絶対で、それだけは何をおいても明確だった。中心っていうか、背骨かな」

『推し活』にもさまざまな種類があり、『推し、燃ゆ』のような個人的な推し活もあれば、直木賞作家の朝井リョウによる二〇二六年本屋大賞受賞作『イン・ザ・メガチャーチ』で描かれるの

は「推し」を世に広める「布教」のために、お金や時間、エネルギーを惜しまない熱狂的なファンダムと呼ばれる集団。それはまるで「教会」であり、登場人物はそこに、生きる意味と居場所を見出すのです。

神ではなくアイドルが、教会ではなくファンダムが、信仰ではなく推し活が、多くの人にとって生きる支え、まさに「救い」になっている現実が確かにあるのです。

教会はどう向き合ひましょうか？推しを推すことで力を得、なんとか日々を生きている主人公に「推し活は逃避であり、信仰こそが本質」とは軽々しく言えません。「あなたに推しがあつてよかった、あなたが生きていてよかった」。そこから福音が始まるのではないのでしょうか。私の教会では、この二冊を教会全体に紹介し、役員会でも読んでもらいました。

避けても言えなくなります。

『婚活マエストロ』（宮島未奈）

人気シリーズ『成瀬は天下を取りにいく』で二〇二四年本屋大賞を受賞した宮島未奈の作品です。

現在、結婚の三〇〜四〇％はアプリによる出会いであり、結婚式や披露宴を行わない「ナシ婚」は四〇〜五〇％であるとされています。

そんな変化の激しい時代に、「クリスマス同士でないと幸せな結婚生活にならない」「祈れば最善の相手が与えられる」——そんなハラスメント発言をしていませんか？（きつと「あなたが夫婦は全然幸せそうじゃないんだけど……」「じゃあ是非でも結婚したくなるようなクリスマスチャン異性を教会に呼んでこい！」と思われています）

この小説を通して、婚活の現実、そして婚活に向かう人の心に触れた時、少なくともそんな無神経な発言は口が

性格、収入、家族の背景、容姿、病

歴など一人ひとりの状況はさまざま。他者と自分を比べたり、自分の年齢に焦りながら、「どうして結婚したいの？」「自分は人から選ばれる魅力があるの？」「そもそも私の願いや幸せって何？」と自問自答しつつ、アプリ、イベント、パーティー、ツアーなどに取り組む登場人物たち。

エンタメ小説で楽しく読みながら、さまざまな婚活の様子を擬似体験できます。作品としては、とてもソフトでハッピーエンド。実際の婚活の厳しさや辛さを十分に描き切れていません。

それでも、登場人物の葛藤や焦燥の場面では読んでいて胸が痛くなります。この作品を読み、少しでも若者たちが置かれている状況への想像力を広げ、若い世代の幸せを切に祈り、応援できる教会でありたいと思います。

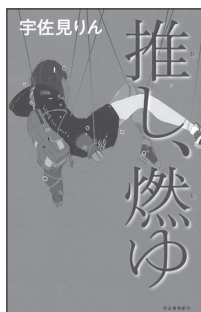
『生殖記』（朝井リョウ）

教会で「最近の若い人は……」と言っているいませんか？「もったいないさ」と自分たちの時代の常識や価値観を押し付けていないでしょうか？

拡大、発展、成長にこそ価値がある。そんな風潮の中で、それぞれに生きるZ世代。その中でも特異で、これといった価値観も特別な目的もなく、ただただ生きていく主人公・尚成。

体育のマットをみんなで運ぶ際、一員として手を添える、けれどまったく力を入れていない。そんなたとえのように、多数派に擬態し、何事にも力を入れず、毎日をただ消費する尚成の生き方を〇〇〇〇の視点で軽快に、痛快に語る現代小説。

たくさんの「こうあるべき」「こうでなくてはならない」の声の中で、淡々



『推し、燃ゆ』

宇佐見りん：著
河出書房新社
2020 年刊
四六判
128 頁
1,540 円

かつ飄々と生きる主人公の姿と心情には、読み進めるうちに愛おしささえ感じます。

若い世代に「こうであるべき」という、伝統、習慣、前例の押しつけは、響かないどころか逆効果です。

「すべての人は神に愛されて価値がある、私達の人生には神の素晴らしい計画がある」という聖書の中心的なメッ

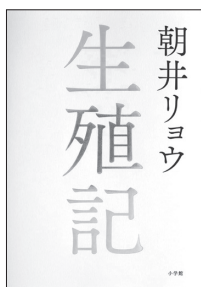


『婚活マエストロ』

宮島未奈：著
文藝春秋
2024 年刊
四六判
248 頁
1,760 円

セージも、本作の尚成にはピンと来ないでしょう。若い世代への神の愛の語り方、表し方について問われる作品でもあります。

一つ言えるのは、すぐに相手を変えようとしないう、こと。時間をかけずに人に思い通りの変化を求める。それは都合が良すぎます。イエス様ですら、弟子たちに三年以上かけ、そして裏切



『生殖記』

朝井リョウ：著
小学館
2024 年刊
四六判
290 頁
1,870 円

られたのですから。

もし尚成のような人が何かのきっかけで教会に来てくれた時、「ここはいろいろ強要されないから楽にいられる」と思ってもらえることが大切だと思います。その人のペースに合わせて、ゆっくりと、じんわりと、何かを感じていつてもらえる教会でありたいのです。

現代に反響する 預言者精神を読み解く

〈評者〉 小友 聡

アモス書を読もう

正義を大河のように流れさせよ

並木浩一

NAHMI KAWA

日本基督教団出版局



アモス書を読もう

正義を大河のように流れさせよ

並木浩一 著



旧約聖書の「アモス書」という書名を聞いて、その全体像を即座にイメージできる人は少ないだろう。アモスは正典預言者の中で最初の人物であり、強烈な社会批判を語ったことで知られる。そのアモスの預言が記された預言書は十二小預言書の三番目にある。この預言書を深く理解するには、現代の聖書学の知見で新たに読み直さなければならぬ。本書は、旧約聖書学者である著者によって丁寧に解きほぐされた、最新の知見によるアモス書入門であり、簡潔な解説書である。著者はヨブ記の研究者として著名で、大作『ヨブ記注解』のほか、この「読もう」シリーズの『ヨブ記を読もう』の著者でもある。この『アモス書を読もう』も信徒向けの著作として極めて価値が高い。

アプローチが鮮明である。本書ではアモスが活動した紀元前八世紀の北イスラエル王国の社会状況が浮き彫りにさ

れ、その中で語った預言の意味が説かれる。著者の見事な想像力でアモスのメッセージがあぶり出される。アモスは職業預言者ではない。「牧者で、いちじく桑の栽培者」(7・14)にすぎないが、社会の現実に対して強烈な批判意識を持ち、共同体と国家を相対化し、契約共同体の法を土台として正義と公正を語った。とりわけ、腐敗したベテル神殿において、命がけで宗教と社会倫理を説いている。

しかし、アモス書はアモス自身が記した預言書ではない。アモスの預言は複雑な形成過程を辿る。彼の預言が筆記され、世代を超えて伝えられる中で徐々に編集され、最終的にアモス書という文書となった。私たちが手にするアモス書は多層的な文書である。この多層性の襞に分け入り、あわいを明らかにし、本書はアモス書の新たな読み解きへと読者を誘う。

アモス書は三部構成（一―二章、三―六章、七―九章）だ。このうち、第三部「イスラエルの将来への幻」には、アモスが見た五つの幻が記され、アモスの活動に関する覚書（自伝記事）も配置されている。この第三部の著者解説は圧巻である。預言を辿っていく中で、アモスという突出した預言者の預言の意義、またアモス書が懸命に伝えようとするアモス預言の射程が鮮やかに浮かび上がる。

本書に記されるテキストの翻訳はすべて著者によるヘブライ語からの私訳である。ヘブライ語の「言葉」の意味の深さに、読者はしばしば圧倒される。アモスが立っている社会状況がまるで現代を映し出しているかに見えてくる。読者はそれに驚き、立ち止まって、この世界のあり様を考えざるを得なくなるだろう。たとえば、二章の「イスラエ

ルへの審判預言」には、こんな説明がある。「ここで指摘されている事態は強者たちの『モラル』感覚の喪失です。法が立ち入ることのできない私的な領域でのモラルの崩壊を、神に対する赦しがたい背信行為であると指摘する。それが、預言者精神の真骨頂です」（五五頁）。アモスの預言者精神は今の時代に対して強烈な問題提起をしているのだ。それを理解するには読者の側にも想像力が求められる。共同的に思考し、彼岸的救済を夢想せず、前向きに、主体的に生きたアモスに、評者は著者を重ねて読んだ。

本書は著者のお連れ合いである秀子さんが召される直前に執筆された。お二人の歩みが生んだ、最後の実りである。（おとも・さとし〓日本旧約学会会長）
（四六判・一七六頁・定価二四二〇円・日本キリスト教団出版局）

ヨベルの新刊 / 既刊案内

朴清民 [著] （日本ホーリネス教団 西福岡キリスト教会牧師）

主イエスと共に歩む旅路



主イエスと共に！主の共同体と共に！
西福岡キリスト教会牧師に赴任し、週報に掲載したコラムが一冊の本に。日々の暮らし、牧会者体験の中から、現代社会の最前線に身を置いたヒトリヒリした肌感覚から……「キリスト者の人生はイエスと共にある旅路である」という「共に」の視点から紡がれた神のことは。 四六判・二七二頁・一八七〇円

深澤 奨 [著] ヤコブ書 試訳・註・メッセージ

持って生まれたことばを生きろ



パウル大先生を正面切って批判する過激で危険な書物が新約聖書に紛れ込んでいた!? それが藁の書簡と呼ばれた「ヤコブ書」。著者はギリシア語聖書本文に肉迫する（私訳、試訳）を丹念に行なった上で、この書の魅力と隠された使信を丁寧に掘り起こす。 四六判・二二四頁・一八七〇円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 呈 (税込)

手紙が呼び起こす感動に学ぶ

〈評者〉
塩野和夫



届かずとも綴り続けた宣教師

日米戦下フィリピンの収容所から

フランク・ケリー著

北垣宗治、森永長壹郎訳

若松大祐編

アン・ケリー監修



アメリカン・ボードの宣教師フランク・ケリー（一八八
八一―一九七三）はフィリピンで日本軍に捕えられ、四一年
一二月から四五年二月まで抑留されている。捕虜生活に
よって一〇〇キロ近くあった体重は大きく減った。ところ
がその間、六十四通の手紙を書いている。多くは家族にあ
てたものだが、それらは深い感動を呼び起こしている。本
稿は母に、妻に、子供にあてた手紙を分析し、その感動に
ついて考察する。

母エレンにあてた手紙は、四二年（三通）、四三年（四
通）、四四年（二通）の九通である。これらで特色が認め
られるのは過去に関する描写である。「お母さんは手紙で
もって愛と思いやりを表現できるすぐれた才能の持ち主で
す」（四三頁）。「あなたとお父さんが忠実に築いて下さっ
た家庭の故に、あなたに感謝いたします」（五九頁）。「お

母さんは私たち子供のために、何とたくさん読んで下さっ
たことでしょう」（七二―七三頁）。「お父さんは善良で正
直で、建設的で忠実で、まじめで学者的で、ユーモアのある
堅実な人でした」（一二五頁）。このような記述からフラ
ンクを育てた母と父のぬくもりが今も彼を温めていること
が分かる。

妻ロザモンドにあてた手紙は四二年（一通）、四三年
（四通）、四四年（五通）の十通である。そこで詳しく書か
れているのは捕虜生活についてである。「今われわれは四
十一人だ。まことにちぐはぐの集団である」（三七頁）。
「収容所にいる男たちの多くは老兵とか、学校教師とかで、
フィリピン女性と結婚した、またはすべきだった男たち
だ」（六七頁）。「有能な女医が、私に食べさせて再び元の
強い人間にするため最善を尽くしてくれている」（八一頁）。

敬神奉仕

堀川敏寛 [編著]

東洋英和女学院大学
礼拝説教より

好評発売中

東洋英和女学院大学での礼拝説教を基にして、スクールモットー「敬神奉仕」の全体像を体系化！ 単なる倫理的命令ではなく、「神の国」という終末的ビジョンとの関係において、敬神奉仕は神学的・倫理学的意味を完成させる。

四六判・二四〇頁・一八七〇円

死生学年報 2026

東洋英和女学院大学死生学研究所 [編]

死生学研究所2024年度（公開）連続講座の内容をもとにした「特集1…葬送と墓制の現在（2）」と、2025年度（公開）連続講座のテーマに添った「特集2…死と再生」の2本立てで特集を構成。3月15日刊

A5判・二四〇頁・二七五〇円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 呈 (税込)

「仕事は、たとえば子供の病気のため親たちが自分の差し掛け小屋で自炊できる許可を取ってくることである」（二一九頁）。「あなたが生んでくれた四人の子供たち、そしてヘレンの夫と、オーテスのアリスとに、お礼を述べてほしい。彼らはここ三年間、私の思いの中にあつてどれほど力づけてくれたことだろう」（二五四頁）。厳しい状況にあつても子供たちに支えられたフランクの心には人間らしい活動が響いていた。

四人の子供たちにあてた手紙は四二年（四通）、四三年（四通）、四四年（四通）の十二通である。「お前の熱意と関心が必要としているこの世が、お前の故により善い、より明るい場所になるように」（長女ヘレンへ、六四頁）。「そのうちいつかお前も家庭を持ち、お前自身の子供を持

つ喜びを味わって欲しい」（次女マーサ・ジンへ、七一頁）。「私にとって大変大きな部分だったお前のことを忘れないし、お前に対する希望は尽きることがない」（長男オーテスへ、八五頁）。「お前には宿題を忠実にするという長所があり、それはその後入学した学校でも大いにお前の成功の基盤となった」（三女メアリ・アリスへ、五三頁）。子供たちを思い浮かべるフランクから四人それぞれの未来に対する希望が輝き出している。

ケーリの手紙が与える感動はどこから生み出されていたのか。それは家族と共に生きた彼の人間性からであり、過去・現在・未来という時を超えて光を放っている。私たちが生きる上でケーリの手紙から学ぶことは多く、重要である。

（A5判・二七二頁・定価四四〇〇円・日本キリスト教団出版局）

八〇代の青春を生きる著者から 全世代に向けたメッセーじ

〈評者〉松本敏之



80歳から創める^{はじ}キリスト教

よく生き よく老い よく学ぶ

上林順一郎著



著者は、1940年生まれの85歳（出版時）。約40年間、早稲田教会の牧師を務めた後、3つの教会の牧師を歴任した。著書には、5冊のメッセーじ・エッセイ集の他、近年では、『夕暮れに、なお光あり』（キリスト新聞社）という共著もある。本書を読んで、「老いてますます盛んなり」と思った。「創」という漢字を使われるあたり、これから何かが新しく始まりそうな予感もする。

一応（？）^{かんばやしおし}隠されたが、「上林節」を聞きたいファンも多く、今でも招かれてあちこちで説教をされている。ネットで聞ける説教で、「職業欄に『無職』と書くことがだんだん寂しくなり、『フリーター』と書いている」と語られていて、「上林先生らしいな」と思わず笑った。

聖書からではなく、日常的な事柄やニュース、一般の書籍から入り、ユーモアを交えながら、聖書の真理、福音の

神髄へと導いていく展開は、健在であり、絶妙である。

最初の章では、日野原重明氏が著書『老いを創める』で「老人になる四つのタイプ」として「抵抗型」「不平不満型」「自己嫌悪型」「しなやか型」を挙げていることを紹介しつつ、著者自身は「おんぶに、だっこ型」を勧める。面白い表現だが、それは「あなたがたが白髪になるまで、私は背負う。私が造った。私が担おう。私が背負って、救い出そう」（イザヤ書46・4 聖書協会共同訳）という言葉に根差している。「神さまはそんな私たち高齢者を担い（だっこし）、運び（おんぶし）、ずっと先まで『背負って』くださるのです」「なんとも虫のよい話ですが、これほど安全で安心なことはないのです。神さまにすべてをゆだねる。老人にはいちばん楽なことでしょう」と述べる。

「生老病死を生き抜く」の章では、永六輔氏が著書『大

往生』で「お釈迦様は安らかに大往生ですよ。……キリストの死に方は痛そうでねエ」と述べていることから始まり、「キリスト教的『大往生』とは諦念ではなく、老、病、死の悲惨と苦しみ直面しつつも、なお新しいいのちへの希望を抱きつつ迎えるものなのです」と締めくくる。

「イエスと同行二人で」の章では、四国のお遍路さんから「エマオ途上のキリスト」（ルカ24・13～35）を語り、「主が与え、主がとられる」の章では、まっすぐに「かずこさん」の苦難の生涯を語りながら、「万事を益となるようにしてください」（ローマ8・28 口語訳）神が示される。

「亡き人を思いつつ」では、墓地を歩いて見つけた面白い墓石を次々と紹介するのだが、最後に随分前に亡くなったお母さんのことに触れ、「私も85歳を過ぎました。天国

に行ったときには、真つ先に探するのは（イエスさまではなく？）『お母さん』のような気がします」と本音を語る。

最後に平和を語ることも忘れない。かつてイスラエルを旅行した時、ガイドがイスラエル人の女性で、バスの運転手がアラブ人の男性であったという。その二人が仲良く食事をしていたことが「平和の象徴」であるように思えたことと述べ、今、「荒れ野と化しているパレスチナの地にイザヤの預言が実現されることを切に祈りたい」と結ぶ。

80歳代の方々だけではなく、私のように高齢者の入り口にいる人たちや若い方々にも読んでいただきたい。わかりやすく、読みやすいので、入門書としてもふさわしい。

（まづもと・としゆき）日本基督教団鹿児島加治屋町教会牧師
（四六判・一二六頁・定価一五四〇円・日本キリスト教団出版局）

中年の祈り

ページをめくる
装備を変える

塩谷直也



中年期、それは喪失を経験しつつ、新たな創造が始まる時期。この人生最大の危機の時を生き抜くための必読書。信仰の視点から中年期を捉えるエッセイと、中年の課題に寄り添う三十数編の祈りを収める。

四六判 並製・144頁・定価1980円

80歳から創めるキリスト教

よく生きよく老いよく学ぶ

上林順一郎



「生老病死を生き抜く」「ヨコの広さか、タテの深さか」など、人生の知恵が詰まったキリスト教の入門書。80歳を超えた著者だから語れる、どんな世代にも納得してもらえ、聖書による人生ガイド。

四六判 並製・128頁・定価1540円

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18

☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457

E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp 《価格10%税込》

<https://bp-uccj.jp>

マルコ福音書説教の実用ガイド 信徒説教者にも熟練牧師にも

〈評者〉 吉岡恵生



マルコによる福音書
説教準備と説教例
越川弘英監修



毎週の礼拝において講壇に立ち、説教を語る務め。それは、牧師として与えられた最も大きな喜びであるのと同時に、深い苦悩を伴う現実でもある。聖書の御言葉と向き合い、会衆を思い浮かべながら語るべき言葉を探し求める歩みは、時に暗闇を手探りで進むような孤独さえ感じさせる。説教の準備に行き詰まり、一人苦悩する夜を何度体験して来たことだろうか。

孤独の務めに押しつぶされそうになった時、私を力づけ、導いてくれたのは同労者たちとの交わりであった。聖霊の助けを祈り求めつつ、同じように御言葉に仕える仲間と悩みや気づきを語り合い、励まし合う。その温かな交わりの中で、自分一人では決して見出せなかった光を、そして、一つの説教が豊かに形作られていく恵みの体験を、私は幾度も味わってきた。

越川弘英氏の監修による本書は、まさにそのような「同労者との語り合い」を紙上において実現してくれる一冊である。本書は、マルコによる福音書全体を45の箇所に分け、それぞれに「説教準備のスケッチ」「説教例」「説教のヒント」を収めている。執筆陣には、第一線で牧会や神学教育に携わる23名の多彩な説教者たちが顔を揃える。

本書のページをめくる時、読者は単なる説教作成のマニュアルを手にするのではない。そこにあるのは、執筆者一人ひとりがいかにテキストと格闘し、神の恵みを引き出そうとしたかという祈りの軌跡である。深い牧会経験や神学的な研鑽に裏打ちされた執筆陣から、確かな土台を得た上で釈義や黙想のプロセスを辿ることは、まるで同じテーブルを囲み「ここから何を語るべきか」と熱く語り合っているかのような豊かな時間を生み出す。

説教とは、単に文字を追うのではなく、話し言葉で行われる生きた出来事である。「説教例」は、約20分で語る実践的な分量でまとめられており、文字を通して執筆者の息遣いまでもが伝わってくるようである。さらに「説教のヒント」には、語る際のねらいや留意点が丁寧に記されており、読み手である説教者への配慮と、共に御言葉に仕える者としての温かな励ましを感じられる。

本書の活用法は非常に柔軟である。提示された説教例をそのまま礼拝で用いることも、自身の学びや体験談を織り交ぜて語れることも、独自の説教を作成する際の土台として用いることもできる。それぞれの教会や説教者の実情に合わせて自由に用いることが許容されている点に、現在の教会を支えようとする執筆陣の温かな眼差しと、すべての説

教者に対する深い連帯を感じる。

今、日本の教会は牧師不足や高齢化という状況に直面し、信徒が説教を担う場も増えつつある。重責を担い講壇に立つ者や、福音を語り継ぐ者と苦闘する説教者にとって、本書は心強い同伴者として御言葉を探し求める旅路に伴走してくれるに違いない。説教準備に行き詰まる夜、傍らに置いて語り合いたい、私たちのかけがえない助け手である。やがて、他の福音書や手紙、さらには旧約聖書まで、聖書の様々な書物において同様のシリーズが刊行されると良いと思う。その期待を新たな時代に託しながら、まずは、イエスの生涯を最初に記したとされるマルコによる福音書を紐解く本書を、教会の書棚に、また説教者の机上に備えたい。

(A5判・三〇四頁・定価三八五〇円・日本キリスト教団出版局)

アモス書を読む 正義を大河の ように流れさせよ

並木浩一



預言者アモスの言葉に端を発して成立したアモス書は、社会的不正義と人間感覚の喪失を鋭く指摘し、正義と公正こそ神の重大な関心事であると語る。著者による私訳と詳細な解説を通して、聖書のことばが持つ多層性と現代性が深く響く。

四六判 並製・184頁・定価2420円

エフエソの信徒への手紙を読む 神の極彩色の世界

深澤 奨



キリストにおける多様性と一致がテーマのエフエソ書。対立する教会がキリストによつて結ばれ、「神の極彩色の知恵」を証しする共同体として歩むよう促す、現代の社会と教会への手紙を斬新に読み解く。

四六判 並製・160頁・定価1980円

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp (価格10%税込)

<https://bp-uccj.jp>

楔形文字から聖書の世界へ

〈評者〉 三津間康幸

アッカド語文法

青島 忠一朗



YORUZAN

アッカド語文法

青島 忠一朗著



楔形文字で粘土板に書かれたアッカド語文書は、文学、歴史、宗教、社会、経済などの多方面にわたってメソポタミアやその周辺に生きた人々についての情報を提供し、聖書の理解にも重要な役割を果たしてきた。一九世紀に発見された『ギルガメシュ叙事詩』第一一書版や二〇世紀に発見された『エサルハドン王位継承誓約文書』、そして二一世紀になってまとまって公開されたアル・ヤーフードゥ文書などが好例である。こうした楔形文字文書を読み解くためにはアッカド語の理解が必要不可欠であるが、最近まで本格的な文法書や辞書は外国語のものしかなく、複雑な文法を初学者が独習することは大変困難であった。

そんな中、二〇二四年にリトン社から青島忠一朗『アッカド語文法』が出版され、ようやく日本語で書かれた本格的な文法書を用いて、アッカド語を独習できる環境が提供

された。諸般の事情により同書は一時入手困難になっていたが、この度ヨベル社より再版され、再び篤学者が本書を手に取りやすくなったことは大変喜ばしいことである。

本書はアッカド語の正則とみられる形が表れている古バビロニア語の文法を三二課に分けて丁寧に解説している。各課には充実した練習問題が付され、それを解くために必要な楔形文字の表や語彙集も各課にあるほか、巻末にもまとめて掲載されている。文字は—こうした文法書では一般的であるが—新アッシリア書体で示されている。練習問題の解答も載っていて、初学者でもアッカド語を学習しやすいよう、十分な配慮がなされている。

本書の著者である青島氏は中央大学大学院で学んだ後ドイツに留学され、アッシリアの王碑文を専門に研究してこられた。その研究経験は本書にも反映されている。本書一

八二—一八三頁には「講読テキスト」として標準バビロニア語で書かれたセンナケリブ王の碑文が取り上げられているのである。取り上げられている文章はわずか三行であるが、センナケリブの第三回遠征における「ルリー、シドンの王」逃亡の場面が紹介されている。このルリーがヨセフスの『ユダヤ古代誌』九・二八三—二八四にエルライオスとして登場することを知ると（佐藤 育子、丸小野 壮太「アッシリア史とフェニキア・カルタゴ史の対話から考える開かれた古代地中海世界史研究」『ヘレニズム・イスラーム考古学研究2024』五九—七〇頁参照）、アッカド語学習により聖書や西洋古典の理解が深まることが感じられるのではないだろうか。他に本書一七〇頁以下の「講読テキスト」に取り上げられているのは、『ハンムラビ

『法典』（古バビロニア語）『ギルガメシュ叙事詩』（標準バビロニア語）『エサルハドン王位継承誓約文書』（新アッシリア語）である。古バビロニア語以外の文書を読む際には、補遺二「アッカド語の地域・時代の特徴」（一九〇—二〇五頁）が大きな助けになる。

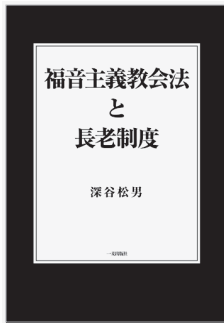
評者は大学の授業で何度かアッカド語文法を教えてきたが、多くの若い学生が楔形文字やアッカド語に強い関心をもつて学習に取り組んだことに驚かされた。本書の再版はこうした人々に学ぶ機会を広く提供し、ひいては聖書にも大きな関心を引き起こす助けになるものと期待できる。

（みつま・やすゆき 関西学院大学文学部教授）
（B5判・三〇〇頁・定価四四〇〇円・ヨベル）



福音主義教会法 と 長老制度

深谷松男
FUKAYA Matsuo



日本の福音主義教会の法について、初めて体系的にまとめた労作

民法学者である著者が、日本基督教団常議員、同信仰職制委員会委員として、また長老としての経験を踏まえ、具体的な事例に即し教会法を考察。

A5判・上製本
定価 3,520 [本体 3,200 + 税] 円
ISBN978-4-86325-157-1



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

「敬神奉仕」という理念の 相互性・総合性の結晶

〈評者〉 小暮修也



敬神奉仕

東洋英和女学院大学礼拝説教
より

堀川敏寛 著



「神である主を愛し、隣人を自分のように愛しなさい」というイエスの御言は「敬神奉仕」「敬神愛人」「畏神愛人」「神を仰ぎ人に仕う」「愛神愛隣」と若干表現を変えつつ、キリスト教学校の建学の精神、スクールモットー、標語となっている。日本のプロテスタント系キリスト教学校では、96法人のうち21法人が掲げている（『加盟校の歩み創立の礎』キリスト教学校教育同盟創立百周年記念、二〇一一年）。

本書は東洋英和女学院大学の礼拝説教を学術的に体系化し、スクールモットーである「敬神奉仕」という理念に基づき学院の教育と宣教が行われていること、さらにこのモットーが聖書全体の文脈に結び付いた根幹的な理念であることを明らかにするものである。

本書を読み、改めて気づかされたことの第一は「敬神奉

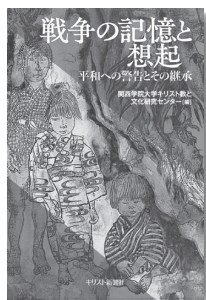
仕」が神の先行する愛と恵みに応答する人間の生き方であるということである。〈わたし〉が神を愛し、〈わたし〉が隣人を愛するというその前に、神が私たちを愛され恵みを与えてくださった。その与えられたものへの応答としてのレスポンスビリティ（責任・応答可能性）が「敬神奉仕」であるということ、このことを肝に銘じたことである。

第二に、イエスの愛を見つめ、苦難の中でも信じて歩み続ける生き方である。アメリカの公民権運動指導者マーティン・ルーサー・キングJr.がイエスにならって人を愛そうとした（I did try to）、仕えようとしたこと、ノーマ・コーネット・マレックの詩『最後だとわかっていたなら』を読んで「ごめんね」「ありがとう」「愛している」という何気ない言葉こそ、明日が来なくても後悔しないための小さな行為であり、そのように大切な人を大切に愛する一瞬

戦後80年の今こそ

戦争の記憶と 想起 平和への警告とその継承

関西学院大学
キリスト教と文化
研究センター◎編



戦争体験者の時代が終わろうとする今、薄れていく記憶をどのように保存し、想起していくのか。凄惨な記憶から生まれた声を未来へとつなげていくために何ができるのか。

国内外の多様な想起の現場からその知恵を探る8つの論考。

四六判・並製・168頁、定価1,650円(税込)

キリスト新聞社 since 1946

〒112-0014 東京都文京区関口1-44-4 7F
03-5579-2432 support@kirishin.com

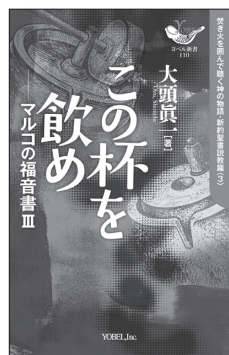
一瞬を重ねて生きていきたい、と記す言葉に共感を覚えた。
第三に、これらの説教から採られた文章の向こう側には多くの若い人たちが存在することである。その人たちに伝えるために『アメーzing・グレース』を作詞したジョン・ニュートンの話、『全旨の僕が弁護士になったわけ』の著者である大胡田誠さん^{おこだまこと}の話、マックス・ルケードの絵本『たいせつなきみ』でのパンチネロの話、10歳で筋ジストロフィーを発症した石川正一さんの『たとえばくに明日はなくとも…車椅子の上の17歳の青春』の話など、多くの人たちの生き方を紹介している。その生き方は若い人のみならず、年輪を重ねた人たちの心にも届くに違いない。
第四に、三人の著者が体験を語っていることである。家の鍵を入れたキーホルダーを失くした時に「見失った一匹

の羊」のように思いもかけない人に助けられたこと、魂の渇きを覚え「事故に遭って今日が最後だったらい」という考えがよぎり、生きる力が湧いてこなかった時に聖書を通して主イエスが語りかけてくれたこと、「愛は忍耐強い。愛は情け深い。妬まない。」この聖書の愛の部分に自分の名を入れてみると、ああ、できていないなど感じるとの告白等を正直に語っていることに好感が持てた。
全国のキリスト教学校や教会が、本書を基にして「神である主を愛し、隣人を自分のように愛しなさい」という御言を深め、実践し、この御言の意味が若い世代を始め、多くの人たちに継承されることを願っている。

(こぐれ・しゅうや・横浜共立学園理事長)
(四六判・二四〇頁・定価一八七〇円・ヨベル)

その歩みは、愛そのものだった

〈評者〉 吉澤慎也



この杯を飲め
マルコの福音書Ⅲ
大頭眞一著



「じわっと、心に沁みてきます」
「気づいたら、涙が出ていました…」
「なんだか、よくわからないけれど、元気が出ました！」
そんなふとした声が聞こえてきそうな本だと、一読して感じました。

本書は、大頭眞一先生によるマルコの福音書説教集の第三巻です。おそらく全体では四部作となるのでしょう。それらを起・承・転・結になぞらえるなら、既刊の第一巻『時が満ちて』と第二巻『わたしを誰と呼ぶか』は、マルコの福音書におけるイエスの公生涯の「起」と「承」を巧みに言い表したタイトルだと思います。

そして、マルコ9章1節から12章34節までの講解説教を収めた第三巻『この杯を飲め』もまた、「転」にふさわしい緊張感をまとった、まことに言い得て妙なタイトルでは

ないでしょうか。「杯とは十字架のこと」（131頁）と解説する説教「仕えてくださるお方」には、不思議なことに、「この杯を飲め」というフレーズそのものは登場しません。それどころか、マルコの福音書自体にも直接には出てこない言葉です。しかし筆者は、この言葉こそが、第三巻に収められた聖書箇所全体に通奏低音のように流れている、神からイエスへの招きの言葉なのだと受け取りました。

実際、イエスが初めてご自身の十字架と復活について語られたのは8章31節です。そして本書が扱う箇所は、その直後から始まり、イエスが十字架にかかれるまでの最後の一週間で克明に描きつつ、そのまさに途上で幕を閉じます。なんとも続きが気になる、いちばん肝心なところで終わるのです。この箇所でマルコが描き出しているのは、杯を飲むために進んで行かれたイエスの姿です。そして、そ

黙想シリーズ

聖書 聖書協会共同訳

日々の黙想

今ここに 気付く

150の祈りと瞑想

各黙想に、
聖書の言葉と
瞑想の実践法を掲載
対象中学生から

神と共に自分自身でいるために
クリスチャンのための
マインドフルネス実践入門



著者

NEW



アイリーン・クレイゲル 著
(心理学者)

合成皮革装・スリーブ入

天地175×左右110mm 360頁

税込価格 2,640 円

ISBN978-4-8202-9294-4



JBS 日本聖書協会

■お求めは全国のキリスト教専門書店
〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1
<https://www.bible.or.jp>



(新書判・二八〇頁・定価一六五〇円・ヨベル)

の歩みは「愛」そのものだった——これこそ、大頭先生の二十篇の説教すべてに通底する主題です。「この杯を飲め」と招く愛なる神と、その招きに応答されるイエスの愛。大頭先生は、難解な箇所や、ときに誤解されやすい箇所からも、イエスの愛を丁寧に描き出し、その愛を、実直に、ひたすらに、ときに不器用なほどまっすぐに語り抜きます。そして、その愛が私たちの心に語りかけ、刺さり、響いてきます。これらの説教が実際に礼拝で語られた時期が、ちようど受難週やイースターと重なっていることもまた、緊張感をいつそう際立たせていると言えるでしょう。

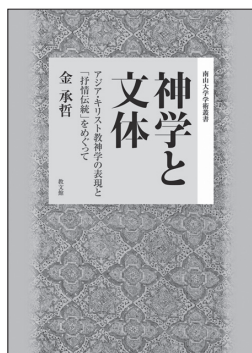
筆者は、第一巻も第二巻も読まず、まず第三巻から読み始めました。もちろん、既刊を読んでからのほうが理解はいつそう深まるはずです。しかし、第三巻だけを読んでも、

とくに支障を感じる箇所はなく、十分に伝わってくるものがあります。大頭先生の真骨頂は、物語の連続性をしっかりと保ちながら語っている点にあるからです。たとえばバラバラにつまみ食いするように読んだとしても、読者はいつの間にか、その背後にある神の物語へと引き込まれていくことでしょう。

本書は、たとえば毎日のデボーションや静思のときに、一日一章ずつ味わいながら読むのに用いられたら、すばらしいと思います。焚き火仲間（大頭先生のオトモダチ）が説教や神学議論のネタ本として用いるのも楽しそうですが、それだけではもったいない一冊です。本書から溢れ出るイエスの愛が、より多くの人のもとに届きますように。

神学的表現の豊かな可能性を 描き出す

〈評者〉 芦名定道



神学と文体

アジア・キリスト教神学の表現
と「抒情伝統」をめぐって

金 承哲 著



本書が目指すのは、アジアの「抒情伝統」を参照することによって、「アジア・キリスト教神学」を構築するという大胆な神学的試みである——厳密には「アジア・キリスト教神学を書くことについて書いたものであって、その神学を書いたものではない」——。この「アジア・キリスト教神学」構想は現代日本のキリスト教を思想的に考える上で不可欠のものであり、キリスト教にとって意義深いものとなるであろう。宗教的多元性と科学に規定された現代アジアという理解に基づいて、科学思想と仏教哲学（これらは伝統的なキリスト教に「無」の自覚を促す）に注目するとの洞察は本書の独創性を示している。

本書の考察は、アジア・キリスト教神学に相応しい「文体」の探究をめぐり展開されており、その議論の緻密さと具体性、そしてそのために参照される文献（まさに古今東

西の哲学、神学、文学をめぐる一次文献と二次文献）の豊富さは圧倒的である。前半の「第一部 なぜ文体が問題なのか」では、神学にとって重要なのは思想の「内容」だけでなくその「表現形式」（文体）であることを、アウグスティヌスから説き始め、近現代の思想家の文体論や禅仏教と自然科学の文体の考察を経て、現代の作家たちの文体論まで視野に入れることによって、説得的に示している。後半の「第二部 「抒情伝統」とアジア・キリスト教神学の文体」では、神学にとっての文体の重要性を確認した上で、「無」に取り組む文学（川端康成）と哲学（西谷啓治）から「抒情詩」「根源的抒情性」が論じられる。ここでアジアの現代文学論を参照することによって取り出されるのが、アジアの文学伝統における「意境」論である。

アジア・キリスト教神学の文体を追究する上で、なぜ抒情

日本における聖書普及
事業150年記念出版

旧約聖書 詩篇 四訳対照

文語訳 口語訳
新共同訳
聖書協会共同訳

歴代の聖書を、
詩篇で読み比べ、
味わってみませんか。



ハードカバー・ケース入

天地210×左右210mm
文字の大きさ約8ポイント
厚さ29mm 422頁

定価 **3,960円**

(本体 3,600円 + 税 10%)
ISBN978-4-8202-4276-5



JBS 日本聖書協会

■お求めは全国のキリスト教専門書店
〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1
<https://www.bible.or.jp>



伝統、意境論なのか。詳細は、本書を熟読いただくことに
して、ポイントをまとめてみよう。現代キリスト教神学が
直面する「無」は単に否定的なものではなく、むしろこの
「無」という「底なしの深淵」を「真正面から突き抜ける」
ときに「真の自己」が可能になる。そこには根源的構想力
が作用しており（悟りの内容を示すイメージを生み出す）、
「意境」とは根源的構想力によって生み出された芸術や宗
教が切り開く世界を指し示している。本書が注目する抒情
伝統とはアジアにおいてこの根源的構想力が具体化する方
法（西洋の叙事詩や劇に対して）であり、中国文学の伝統
から東アジア文学の伝統の全体に及んでいる。抒情伝統は
仏教の影響下で形成されたものであり、その点において、
「仏教的伝統との対話によって造形されるアジア・キリス

ト教神学に相応しい書き方を提供」することが期待できる。
以上は本書の豊かな内容の一端に過ぎない。この書評を
結ぶに当たって、本書の意義について、補足的な指摘を
行ってみよう。本書では、アウグスティヌスから現代神学
（特にバルト）に至る文体の意義が論じられるが、これは、
二〇世紀に多様な仕方で行われてきた現代思想における「言
語論的転回」と関連付けることができる。そしてこの言語
論の中心にレトリックや文体は位置している（聖書学との
関連も重要）。本書が読者を招くのは、現代思想との対論
においてアジア・キリスト教神学を構想するという魅力的
な試みなのである。

（あしな・さだみち＝宮城学院女子大学学長、京都大学名誉教授
（A5判・四二二頁・定価六八二〇円・教文館）

半世紀にわたる探究の集大成

〈評者〉野々瀬浩司



ドイツ語圏宗教改革

ツヴィングリとルター

森田安一著



本書は、著者である森田安一氏がこれまで宗教改革史に

関連して執筆してきた、論考や史料翻訳を収録した論文集

であり、膨大な史料の分析に依拠した実証研究の成果を収

めた大著である。森田氏は、東京大学において学部から大

学院博士課程まで歴史学を学び、博士号（文学）を取得し、

スイス連邦政府給費奨学生としてチューリヒ大学に留学し

た経験を有し、岡山大学や東京学芸大学での勤務を経て、

現在日本女子大学名誉教授という肩書を持っている。森田

氏の研究範囲は多岐にわたり、宗教改革史に加えて、中近

世スイス・ドイツの都市史、シュペーリ著『アルプスの少

女ハイジ』に関する研究を含むスイス史全般、幕末以降の

スイスと日本の交流史にも及び、非常に多くの著書・論

文・翻訳が残されている。森田氏の研究内容は広いだけで

はなく、その視点は鋭く深い。本書の目次は以下のように、

全体として五部に分けられ一四章で構成されている。

目次

はしがき

第一部 ツヴィングリの改革運動―再洗礼派と人文主義―

第二部 ツヴィングリの政治思想

第三部 西南ドイツの宗教改革の諸相

第四部 ルターの宗教改革

第五部 補遺

「はしがき」に記されている「思想は一人歩きしない」

（四頁）という言葉の意味を理解するためには、新しい思

想が誕生して流布し社会に受容される際には、その時代の

社会構造や法制などが深く関係しているという著者の歴史

観を十分に把握する必要がある。ミュンツァーの抵抗権思想から研究を始めた森田氏は、思想史や文化史だけではなく、社会史や法制史などに關しても深い造詣を持っている。本書の内容は、全体として次のように三つに大別できる。第一に、宗教改革期の思想自体を扱った研究が挙げられる。本書ではツヴィングリ、ルター、人文主義者、スイス再洗礼派などの思想が考察されている。第二に、新しい思想が成立する前提となった時代背景（社会経済構造、政治体制、法制、外交関係、軍制など）を分析した、都市を中心とした地域史研究の成果が収録されている。第三に、宗教改革の思想が広まり受容されていったコミュニケーションの過程やそれによって生じた社会の変化が、プロバガンダ合戦で作成されたパンフレット、ビラ、木版画などの考察によって明らかにされている。

本書の主要なテーマの一つは、ツunftや教区を中心とした都市における聖俗の共同体研究である。ツヴィングリが都市邦チューリヒにおいて公開討論会の開催などで主導

した宗教改革は、既存の共同体を基盤とした運動として特徴づけられ、それから分離したスイス再洗礼派の運動は、一層徹底した共同体原理の下で独自の「信者の共同体」を形成したものと規定されている。それに対して、主にザクセン選帝侯領で活動したルターの神学においては、苦悩する個人として神の前に立つことを重視し、不可視的な教会観を提唱したことから、中世的な共同体から比較的距離を置いた側面が示されている。本書では中世と近世の間の連続性と断絶性の両面が指摘されているが、特にルターの思想に關しては、万人祭司主義を掲げて教皇を反キリストと見なすなど、中世世界の破壊者という部分が垣間見られる。今後日本において、宗教改革史に關して、これほどまでに広く深い研究成果を残すことは、難しいのではないかと推察する。

（ののせ・こうじ＝慶應義塾大学文学部教授）
（A5判・四七二頁・定価六〇五〇円・教文館）

既刊案内 (2026年2月～3月)

編・著・訳者	書名	判型	頁	定価(税込)	版元	発行日
吉田 亮 編著	同志社大学人文科学研究所研究叢書 LXVI 占領期日本の教育再 建と越境キリスト教	A5	390	7,480	教文館	2/12
加藤 常昭	日本伝道論	四六	342	3,190	教文館	2/25
金 承 哲	神学と文 体——アジア・キリスト教神学の 表現と「抒情伝統」をめぐる	A5	412	6,820	教文館	2/25
並木 浩一	「読もう」シリーズ アモス書を読もう ——正義を大河のように流れさせよ	四六	184	2,420	日本キリスト 教団出版局	2/16
宮本 久雄	宮本久雄著作選集3 エヒエエロギア ——自らを超えゆく神の探究	A5	314	4,620	日本キリスト 教団出版局	2/28
ピーター・A・ハフ著 藤原淳賀、豊川 慎訳	神学は語る ファンダメンタリズム	A5	266	4,070	日本キリスト 教団出版局	2/24
深 澤 奨	「読もう」シリーズ エフェソの信徒へ の手紙を読もう ——神の極彩色の世界	四六	160	1,980	日本キリスト 教団出版局	2/25
木村 恵子	自分探しのひとり旅	四六	248	1,650	キリスト新聞社	2/18
森田喜基、高田 太編	アメリカン・ボードと 日本のキリスト教主義学校	A5	276	3,300	キリスト新聞社	2/25
吉田 新	聖書翻訳と宣教 ——日本語訳聖書関連資料の研究	A5	336	6,600	新教出版社	2/25
ミロスラフ・ヴォルフ 著 彦田理矢子訳	排斥と抱擁 ——アイデンティティ・他者性・ 和解の神学	A5	560	7,920	新教出版社	2/25
堀川 敏寛 編著	敬神奉仕 ——東洋英和女学院大学礼拝 説教より	四六	240	1,870	ヨペル	2/28
大頭 眞一	焚き火を囲んで聴く神の物語・ 新約聖書説教篇3 この杯を飲め ——マルコの福音書3	新書	280	1,650	ヨペル	3/3
東洋英和女学院大学死 生学研究所編	死生学年報2026 ——特集 死と再生／葬送と墓 制の現在《統》	A5	240	2,750	ヨペル	3/17
青島 忠一朗	アツカド語文法	B5	300	4,400	ヨペル	3/17
深 澤 奨	持って生まれたことば (ロゴス)を生きる ——ヤコブ書 試訳・註・メッ セージ	四六	224	1,870	ヨペル	3/19
富田 正樹	戸惑いながら信じてる50 ——新型キリスト教入門 その2	四六	216	1,540	ヨペル	3/19

編・著・訳者	書名	判型	頁	定価(税込)	版元	発行日
日本聖書学研究所編	聖書学論集 56	A5	146 + vi	3,850	教文館	3/11
牧田吉和	改革派説教	A5	500	6,600	教文館	3/25
J・デイヴィース著 浅野淳博監訳 岡谷和作、大川 大地、鈴木仰訳	パウロと黙示 ——黙示的パウロの研究史と展望	A5	268	3,960	教文館	3/25
小見のぞみ	みんなで神の国を ——キリスト教教育という希望	A5	148	1,760	日本キリスト 教団出版局	3/19
越川弘英監修	マルコによる福音書 説教準備と説教例	A5	304	3,850	日本キリスト 教団出版局	3/23
フランク・ケーリ著 北垣宗治、森永長壹郎訳 若松大祐編 アン・ケーリ監修	届かずとも綴り続けた宣教師 ——日米戦下フィリピンの収 容所から	A5	272	4,400	日本キリスト 教団出版局	3/24
勝村弘也	VTJ 旧約聖書注解 サムエル記 上 16～31章	A5	424	7,260	日本キリスト 教団出版局	3/25
山我哲雄	VTJ 旧約聖書注解 列王記 下 3～14章	A5	400	7,040	日本キリスト 教団出版局	3/25
上原一茂、上原真知子 著	サント サント サント ——神さまの恵みに感謝	A5	96	1,100	日本キリスト 教団出版局	3/25
グラント・ワッカー著 相川裕亮、田中稔十訳	ビリー・グラハム ——ひとりひとりの魂と向き 合った伝道者	四六	576	5,390	新教出版社	3/25
洪伊杓著	南山大学学術叢書 帝国の神道とキリスト教 ——近代日本のキリスト者 における神道理解と社会思想	A5	642	7,700	新教出版社	3/25
久野牧	神の目にあなたは貴い ——ユースにおくる! 生きる ための道しるべ	A5	170	1,980	一麦出版社	3/26
高橋洋成、小友聡、 近藤泰弘、角田佑一著 日本聖書協会編・監修	New 聖書翻訳 No.11	A5	92	1,540	日本聖書協会	3/31

書店名	郵便番号	住 所	電 話	ウェブサイト	URL	メー ル	郵便振替
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用			02350-0-874
エッセイの木	980-0012	仙台市青葉区緋町1-13-6 エアオ1F	022-223-2736	022-302-6678	https://essainoki.jp/	shop@essainoki.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区銀座2-282 千葉リゾナントタワービル	043-236-1224	043-247-3072	http://www.keisanchristian.jp	keisan@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyodunkwan.co.jp	xbookss@kyodunkwan.co.jp	00120-2-11357
待晨堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://naistndobooks.jimdo.com/	taisindo@com.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス東京	169-0051	新宿区西早稲田3-18/MACDビル2F通販部門	03-3203-4137	03-3203-4186	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
東京キリスト教書店	112-0014	文京区駒込4-44崇徳町2丁目1番101外販部門	03-3260-5663	03-3260-5637	http://biblehouse.jp	tokyo@nikkrian.co.jp	00130-3-60976
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.biblehouse.jp/yokohama-cds/index.html	sksch@mvya.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	466-0045	名古屋東区丸根町316 味サキス 教団事務教納	052-680-8090	052-680-8091	http://nagoya-seibunshala.coocan.jp/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
バイブルハウス京都	606-0007	京都府左京区金鐘山2-27 日本基督教連合会 外販部門	090-5138-7020	075-320-1844		kyoto-jbs@bible.or.jp	01010-2-594
バイブルハウス堺	591-8023	堺市北区中百舌町2-67 チャペルビル2F	072-255-4970	075-255-4971		sakai-jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
大阪キリスト教書店	552-0003	大阪市港区藏前2-218 港リニール教会1F	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osakacds.web.fc2.com/	ochinbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
堺キリスト教書店(聖館社)	591-8044	大阪府堺市北区中長尾町21-118	072-254-2233	共用		sakaixx@outlook.jp	00970-0-172228
神戸キリスト教書店	650-0025	神戸市中央区相生町4-5-12 神戸聖前ビル401	078-331-7569	078-945-9388		kobex@nikkrian.co.jp	00170-2-421390
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hselbun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
リバーサイドブックス	779-1105	徳島県阿南市羽ノ浦町古庄大道ノ西13	090-8694-4986	050-3142-3017		ykwbt3@gmail.com	16220-17974891
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/netsujane_1007/index.html	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
バイブルハウス熊本	862-0971	熊本市中央区大江4-20-23	096-372-3503	共用		kumamoto-jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	904-2143	沖縄県沖縄市知花4丁目12-33	098-927-0220	098-938-1102	https://www.okinawacds.net	info@okinawacds.net	01790-4-152916

※一般書店関係の方は 日吉販売部 Ⅱ 03-3260-5670 にご連絡ください。



全国のキリスト教書店員が選んだいちばん読んでほしい本

キリスト教書店大賞2026



2025年1月～12月に出版されたキリスト教書の中から全国のキリスト教書店員が大賞を選出します。 主催 キリスト教出版販売協会

ノミネート 12作品 (タイトル50音順)

価格は10%税込

祈られて、 がんと生きる

ボクと牧師の
24の往復書簡

峰岸大介・大嶋重徳 著

定価1,870円

いのちのこぼれ社

静岡聖文舎
杉村咲子さん

オススメ

同じ病と闘う方々に、共感と慰めを与えてくれると思います!!



旧約聖書 詩篇 四訳対照

定価3,960円

日本聖書協会

バイブルハウス堺
片山のぞみさん

オススメ

文語訳、口語訳、新共同訳、聖書協会共同訳が見開きの頁に並んでいて、一度に読み比べることができま。翻訳の歴史を感じられる一冊。



教会は初めての あなたへ

32人の牧師からの手紙

小林よう子 編

定価1,430円

日本キリスト教団出版局

キリスト教書店ハレルヤ
松永希美子さん

オススメ

クリスチャンが少ない今、教会ってどんなところ？キリスト教や聖書の教えについて、手紙形式でわかりやすい本です。



こどもに語ろう 聖書のおはなし 160

久世そらち 編

定価2,200円

日本キリスト教団出版局

新生館
神吉 学さん

オススメ

幼稚園から教会学校まで使える例話が充実しており、テーマから聖書箇所を探すこともできる。



J.S.バッハの オルガン音楽 全曲解説

ピーター・ウィリアムズ 著
廣野嗣雄・馬淵久夫 監訳

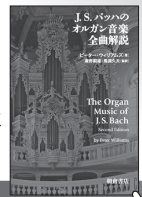
定価13,200円

朝倉書店

大阪キリスト教書店
上田玲子さん

オススメ

辞典のように曲を詳しく、読みやすく、教会暦に合わせた奏楽曲選びにも大活躍! すべてのバッハファン・音楽ファン・音楽愛者だけでなく、各教会・各施設・各家庭にも置いていただきたい一冊。



聖書通読31

神の救いをたどる旅

石田 学 著

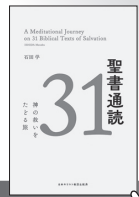
定価1,760円

日本キリスト教団出版局

恵泉書房
関 達夫さん

オススメ

副題にあるように「神の救いをたどる旅」をガイドしてくれる。一度読んだら終わりにするのではなく、繰り返し読んで身に付け、迷うことなく旅を続けたい。



聖書の ことば辞典

小友 聡 著

定価1,980円

教文館

神戸キリスト教書店
福島知子さん

オススメ

読むだけで聖書が近くなる! 「なんとなく知っていた」が深まります。



聖書のなかの 残念な人たち

MARO
(上馬キリスト教会
ツイッター部) 著

定価1,980円

笠間書院

沖縄キリスト教書店
川上直美さん

オススメ

聖書の人物を通して「人間の弱さ」と「神の恵み」を親しみやすく伝え、現代の読者に福音の核心を届ける一冊です。



日本史の中の クリスチャンたち

植松三十里 著

定価2,200円

サンパウロ

教文館キリスト教書店
峯岸香祈さん

オススメ

奇蹟な表紙にわかりやすいタイトルで、内容も読みやすく、手に取りやすい本。キリスト教に馴染みのない方にも、クリスチャンの方にも、幅広い方に読んでいただきたい。



福音派

一終末論に引き裂かれる
アメリカ社会

加藤喜之 著

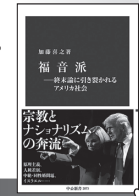
定価1,320円

中央公論新社

教文館キリスト教書店
永井博史さん

オススメ

トランプ政権の誕生に大きな影響を及ぼしたと言われる福音派—その思想や歴史を論じ、分断するアメリカ社会のいまを伝える一冊。



ルピナス・ ヴァレーへの道

夢をあきらめないで

森本加代・
森本二太郎 著

定価1,760円

日本キリスト教団出版局

清光書店
飯尾千尋さん

オススメ

ジャック買ったくなる本です。読書が好きだったけど、だんだん本が読めなくなつて…とおっしゃるお客様が増えています。そうおっしゃるお客様にこそお薦めして、喜んでいただきました。



わたしがいる あなたがいる なんとかなる

「希望のまち」のつくりかた

奥田知志 著

定価1,870円

西日本新聞社

教文館キリスト教書店
八重樫雅子さん

オススメ

大きな「なんちゃって家族」。少子化の中、子供も老人も若者も助け合つて、つながっていく。そんな思いに「光」が「生きる」が見える一冊です。



キリスト教書店大賞Facebookページ

<https://www.facebook.com/christianbookoftheyear/>

「いいね!」をクリックして
最新情報をGET!

QRコードで簡単アクセス! →



福音と世界

2026年6月号

特集Ⅱ震災から15年

(責任編集Ⅱ吉田新)

いま、何と向き合っているのか

寄稿者Ⅱ松谷基和、金丸真、佐藤由子、

飯島信、東野真和、高橋悦堂

◆国際ボンヘッファー協会の緊急声明 ◆連載ズレズレなるままに(川口弾)、古代イスラエル入門(日高貴士耶)、人物・日本キリスト教史(戒能信生)、ばやし牧師のさすらい説教録(富田正樹)、異端者の世界航海(福岡揚 他)

A5判・定価660円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyo-pb.com

編集室から

中東情勢が混迷を極める中、思いの形で「戦争反対」の意思表示をするアピール行動が各地に広がっている。「オタク」による反戦デモと銘打った集会では、「好きなものを守りたい」「戦争は、好きを奪う」という素朴なメッセージに共感した2千人以上の「オタク」たちが国会前に集まった。

日本のサブカルチャーの礎を築いた先人たちは、戦争の影を背負っていた。特撮の父・円谷英二は戦中、軍の記録映画制作に関わりながらも、戦後は怪獣という寓意を通して破壊と恐怖の記憶を映像化した。『ゴジラ』における核のメタファーは、娯楽の皮をかぶった痛切な反戦の表現でもあった。水木しげるは自身の体験をもとに、戦場の不条

予告

本のひろば

2026年7月号

本・批評と紹介

(書評) 深澤獎著『エフェソの信徒への手紙を読む』、深澤獎著『持つて生まれたことばを生きろ』、嶺重淑著『今さら聞けない!キリスト教新約聖書の祈りと倫理編』、金承哲著『神学と文芸』、日本クリスチャンアカデミー関西セミナーハウス活動センター編『戦争の時代』にしないために』他

理を克明に記録した。手塚治虫は数々の作品で生命の尊厳と平和の尊さを謳い、『仮面ライダー』の生みの親である石ノ森章太郎は『サイボーグ009』で戦争と科学の暴力性を描いた。

オタク文化はしばしば内向きで逃避的だと評されてきたが、その源流には、過酷な現実に苦悩してなお「救済」と「希望」の物語を紡ごうとした者たちの意志があった。

彼方の大国が自国第一主義を掲げ、傍若無人の振る舞いを宗教的言説によって正当化して憚らない今日。かつて「キリストオタク」と揶揄されたキリスト者は何を語り得るのか。十字架と復活は、力による支配、破壊と殺戮に対する決定的な否ではなかったか。聖書を愛し、教会を愛し、平和を愛する者たちこそ、好きを奪う力に沈黙してはならない。

(松谷)

教文館創業140年
記念限定復刊！



H・バルツ、G・シュナイダー「編」荒井 献、H・J・マルクス「監修」
新約聖書本文に現れる全ギリシア語語彙の文脈的・歴史的・神学的意味を解き明かす比類なき事典として、刊行以来多くの方々にご愛用いただいていたロングセラーを小型化・軽量化。

●A5判・1788頁・定価69,300円

ギリシア語新約聖書釈義事典「全巻セット縮刷版」

●A5判474頁・定価7,480円

●四六判・294頁・定価1,650円

牧師である著者が、教会付属幼稚園の園長を務めて50年余。子どもたちと遊びながら、四季折々の行事の中で、コロナウィルスとの闘いの中で感じた（神の業（わざ）を、すべての人にわかりやすく伝える、楽しいエッセイ。



石橋秀雄「著」

幼子とともに 祈りの中の保育

夢中になって遊ぶこと
特別に愛されるということ

オンデマンド重版のお知らせ

テルトウリアヌス 著 鈴木一郎 訳

キリスト教教父著作集14

テルトウリアヌス2 護教論（アポロゲティクス）

●A5判224頁・定価3,850円

日本聖書学研究所 編

聖書外典偽典6 新約聖書外典I

バビルス（川村輝典、松永希久夫訳）エビオン人福音書（松永希久夫訳）ヘブル人福音書（川村輝典訳）エジプト人福音書（川村輝典訳）ヤコブ原福音書（八木誠一、伊吹雄訳）トマスによるイエスの幼時物語（八木誠一、伊吹雄訳）ペテロ福音書（小林稔訳）ニコデモ福音書（田川建三訳）ラオデキア人への手紙（青野太潮訳）パウロとコリント人との往復書簡（青野太潮訳）セネカとパウロの往復書簡（青野太潮訳）パウロの黙示録（佐竹明訳）シビュラの託宣（佐竹明訳）



石原吉郎と安西均

5月22日



柴崎聰 著

戦後詩に大きな足跡を残した両者は戦時下に受洗したキリスト者だった。二人の共通点と相違点を探りながら彼らの詩業の核心に迫った力作評論。 四六判・定価2420円

シュライアーマー

その生涯と思想

ヘルマン・フイツシャー著／伊藤慶郎訳

5月22日



批判的校訂版全集と近年の研究成果に基づき、伝記上の重要な出来事、および神学と哲学に及ぶ膨大な著作の全体像を概観する最新の評伝。 四六判・定価2970円

ビリー・グラハム

ひとりひとりの魂と向き合った伝道者

3月25日



グラント・ワッカー著／相川裕亮、田中稔十訳
大群衆に獅子吼する大衆説教者。冷戦期に歴代大統領に影響を与えた祭司的預言者。一人一人に向き合う牧者。その複雑な素顔に迫った評伝。 四六判・定価5390円

帝国の神道とキリスト教

3月25日

洪伊杓著

近代日本のキリスト者における神道理解と社会思想
神道との融合を図った海老名弾正の思想とその影響を丹念に辿る。 A5判・定価7700円

ナシヨナリズムとキリスト教

梅津順一著

蘇峰・諭吉・鑑三 平民主義から帝国主義に転向した徳富蘇峰を福沢・内村と比較した論考集。 四六判・定価3080円



ツインツェンドルフの神学

4月24日

エーリヒ・バイロイター著／梅田與四男訳

敬虔主義の核心をめぐる彼のキリスト論、三一論、聖書論、宣教論、信仰論などを解明する。 A5判・定価5390円

排斥と抱擁

アイデンティティ・他者性・和解の神学

大反響

ミロスラフ・ヴォルフ著／彦田理矢子訳

異質な者を憎悪し排斥する者を、愛し抱擁することなど果たして可能なのか。凄惨な旧ユーゴ内戦を経験した著者は、罪と赦し、正義と和解の問題を、幅広い論客と対話しつつ十字架の神学に基づいて徹底的に考え抜く。待望の邦訳。 A5判・定価7920円

本のひろば.com

